

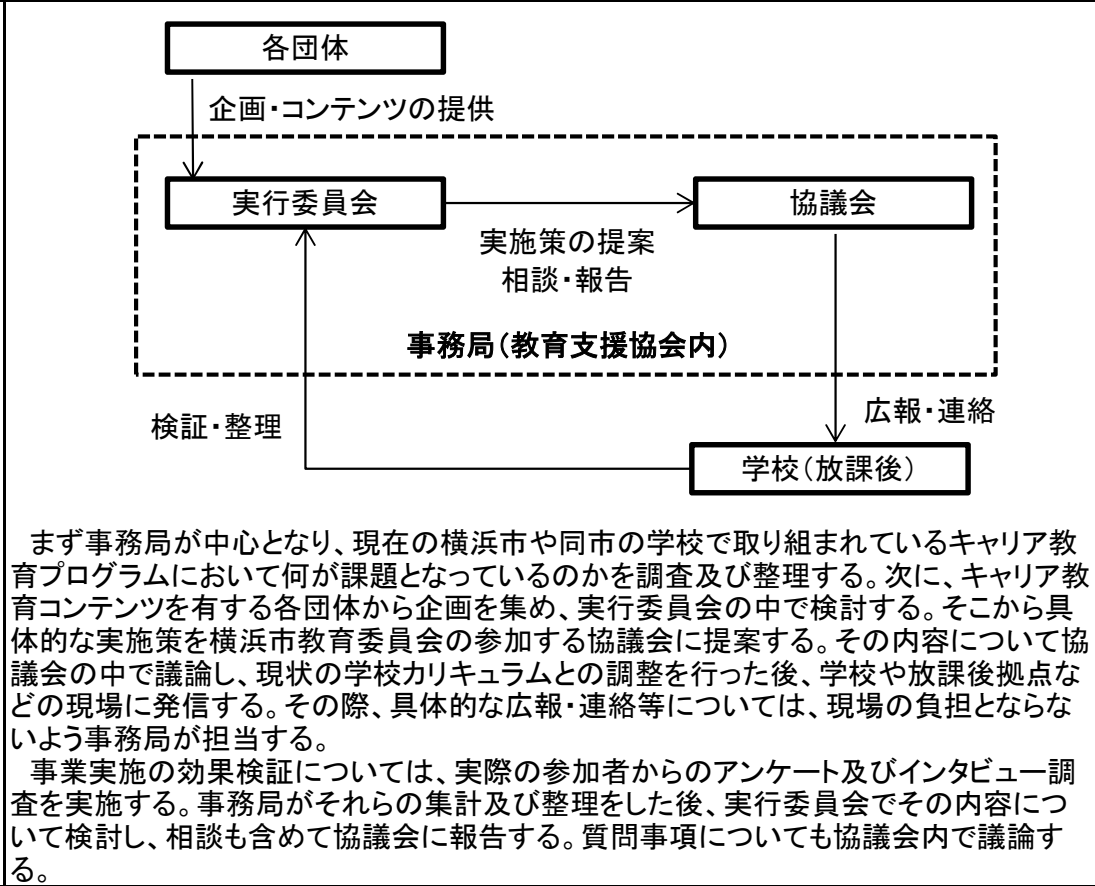
## 「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」実施報告書

<b>1. 実施主体</b>	
本事業を受託し、協議会の核となる自治体、もしくは経済団体等名	特定非営利活動法人 教育支援協会
<b>2. 現状及び課題</b>	
地域内でのキャリア教育に関する現状	<p>横浜市におけるキャリア教育であるが、以下のような取組みがなされている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各区にある生涯学習支援センター・市民活動支援センターなどでの若者への学習機会や場の提供を行っている。</li> <li>2. 横浜市立学校では小・中・高等学校とそれぞれキャリア教育を行っているが、小学校では、将来の生き方や職業への夢や希望を膨らませていくという観点に基づいて、仕事に対し関心・意欲を向上させる教育、中学校では、興味や関心等に基づく職業観・勤労観を形成するとともに、実践や職場体験活動を中心として、地域や大人、企業との関わりについての学習を実施、高校では、進路指導・進学を中心とした実践的なキャリア教育を実施している。</li> <li>3. 不登校児童・生徒のキャリア教育の場として、ハートフルフレンド・ハートフルスペース・ハートフルルームなどを設置し、市立小・中学校への支援を行っている。また、ハートフルフレンドにおいては、不登校の子どもたちが大学生とともに遊びや趣味、教科学習を一緒にする中で心を開き、将来への生きる力を養っている。</li> <li>4. 専門学校と高等学校・小中学校が連携した取り組みとして、高校生を対象にした体験学習講座や青少年を対象とした職業体験プログラム、中学生を対象に出張講座「仕事の学び場ジュニア」などの実施、高校と大学が連携したキャリア形成特別講座や「キャリア形成」「インターンシップ」などの集中講座の実施などを行っている。</li> <li>5. 学校と地域が連携した子供を受け入れる地域づくりとして、職業体験がより実体験に近いものとして行われている。</li> </ol>
地域内でのキャリア教育に関する課題	<p>横浜市のキャリア教育の取組みについて、以下の様な課題が挙げられている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習機会や場の提供を行っていても、学習に意欲的な若者と無関心な若者との差が見られる。また、自らが学ぶ力を育むとともに、実社会により即した学びについての検討が必要。</li> <li>2. 自分がどのように社会に貢献するかということを考える教育機会は十分とは言えない。</li> <li>3. いじめ、不登校、生活保護家庭、外国籍、高齢化率の高い地域を抱えており、単に職業体験を重ねることが生きる力を育み、将来の進路を考えることにつながらない児童生徒を抱えている。このような地域性のもと、最も重要となることは、自尊感情を育み、一人の市民としての意識を醸成させるために、積極的に社会に参加し、自己が認められる仕組みづくりである。そのために、様々なキャリア教育にとどまらない、自らが考え、自らが参加できる様々なイベント・プログラムの仕組みづくりが必要と考える。</li> <li>4. 若者に不足しがちな、対面でのコミュニケーション力は数日の職業体験で完全に身につけることは難しく、継続的に社会の人と接することにより培われるものである。</li> <li>5. 事業を継続していくにあたり、学校・教員への負担が大きいという意見や、中学校のカリキュラムの中で、このような取り組みに対して十分な時間を取ることが難しいという指摘がある。</li> </ol>

### 3. 委託内容に対する取組

(1) 学校におけるキャリア教育に対する支援を目的として、地域の関係者が参画する会議体の設置及び運営

地域の推進体制  
(図などを用いて  
地域全体の体制  
が分かるように  
示すこと)



協議会の構成	団体名	役割
	横浜市教育委員会	情報提供 実施現場との調整
	横浜市立南吉田小学校	実行委員
	横浜市立港中学校	実行委員
	特定非営利活動法人 教育支援協会	事務局
	特定非営利活動法人 放課後アフタースクール	企画・コンテンツ提供
	一般社団法人 かんきょうデザインプロジェクト	企画・コンテンツ提供
	横浜市立大学	企画・コンテンツ提供 大学生のキャリア教育支援
協力団体	団体名	役割
	横浜市立川上小学校ならびに放課後キッズクラブ	実行委員
	横浜市立つつじが丘小学校ならびに放課後キッズクラブ	実行委員
	横浜市立山王台小学校ならびに放課後キッズクラブ	実行委員
	横浜市立茅ヶ崎小学校ならびに放課後キッズクラブ	実行委員
	横浜市立中山小学校ならびに放課後キッズクラブ	実行委員
	横浜市立新吉田第二小学校ならびに放課後キッズクラブ	実行委員
	横浜市立日枝小小学校ならびに放課後キッズクラブ	実行委員
	横浜子ども支援協議会	広報協力
	フリースペースみなみ	広報協力
多文化共生ラウンジ	広報協力	

<p>目標</p>	<p>横浜市における学校キャリア教育の課題として、「自分がどのように社会に貢献するかということを考える教育機会は十分とは言えない」「事業を継続していくに当たり、学校・教員への負担が多いという意見や、中学校のカリキュラムの中で、このような取り組みに十分な時間を取ることが難しいという指摘がある」といったことが挙げられている。</p> <p>本協議会では、社会の中で一人ひとり活躍できる場所は異なり、もっと身近なところに様々な仕事をしている人たちがいるということを子供たちが認識できるような方策及び支援策を議論する。</p> <p>また、事業を実施する際に行う広報や各団体及び参加者への連絡等については、学校・教員への負担あるいは学校カリキュラムの阻害とならないよう、事務局が担当することで、より流れを円滑にする。</p> <p>また、具体的な開拓先としては三年計画を予定している。一年目は、キャリア教育の実施に課題のある学校、放課後現場、複合的課題を抱える児童生徒の関係機関中心に呼びかけを行い、発想を転換をするキャリア教育としてのモデルをつくっていく。二年目は、そのモデルを活用しながら、現在キャリア教育が行われている学校で活用していける仕組みづくりを行っていく。三年目は、学校、放課後、複合的課題を抱える児童生徒の関係機関が一体となったキャリア教育プログラムを展開していく。特に初年度については、現在キャリア教育コンテンツの実施が滞っている学校の課題を整理する。また、新たな取り組みとしての企画やコンテンツ内容を協議会で議論し、それを放課後の時間や課題を抱える子供たちが実際に参加しての効果検証を中心に行っていく。</p>
<p>方針</p>	<p>上記の目標達成に向けて、以下のような取り組み方針とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市における学校キャリア教育の課題として、「自らが学ぶ力を育むとともに、実社会により即した学びについての検討が必要」「自分がどのように社会に貢献するかということを考える教育機会は十分とは言えない」などの意見から、本事業では、従来学校が展開していた金融関係やエンジニア関係など、一般的に将来が安定だと思われたり子供たちにとって魅力的であったり、内容が分かりやすい等の仕事だけに偏らず、地域の需要に合致したコンテンツを提供することにより、資源リサイクル業界や地域商店街での仕事を始めとして、子供たちが新たな職業観を得ることを重視する。</li> <li>・より実社会に即した体験を実現するために、地元に着した企業や経済団体との関わりを重視する。</li> <li>・相談センターや医療センター、福祉部局など各専門機関との連携により、障害や貧困を始めとした複合的課題を抱える子供たちにも対応する。また通訳などを派遣することにより、外国につながる子供たちへも十分なキャリア教育の機会を提供する。</li> <li>・事業の実施については、子供たちのやる気を引き出すためにも、自分たちが主体的に関われるような仕組みづくりを行う。</li> <li>・若者に不足しがちなコミュニケーション力を身につけるためにも、継続的な関わりの場を提供する。</li> <li>・負担のかかる広報、連絡などについては事務局が担当し、広報先としてはキャリア教育の実施を検討している市内の学校中心に、放課後拠点、各フリースクール、外国につながる子供たちを専門に対応している機関にも積極的に呼びかけるなど、広く展開する。</li> <li>・スタッフについては、より地域の職業観や感覚を知るためにも、なるべく地域のボランティア中心に担当する。</li> <li>・効果の検証については、アンケート・インタビュー調査を行う。</li> </ul>
<p>事業の自立的かつ発展的な運営体制</p>	<p>事業の自立的かつ発展的な運営体制について、以下のような点が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の企業であるが、今までキャリア教育については関わる機会の少なかったかんきょうデザインプロジェクトなどの団体が協議会に加わることにより、新たな分野の職業観について子供たちが体験できる仕組みづくりが行える。</li> <li>・事務局が設置される本団体が、不登校状態や障害を持った児童生徒などを対象とした再登校支援施設を運営や各フリースクールとの連携を行う横浜子ども支援協議会の事務局を担当、また、地域での複合的課題を抱える子供たちの学習支援を行っていることもあり、今まで情報の届きにくかった子供たちに対してもキャリア教育の機会を提供することが可能となる。また、地域柄外国につながる子供たちが多く在住しているので、関係機関から通訳を配置するなどして、言語面のフォローを行う。</li> <li>・広報先について、関係性のある機関や地域の校長会などでは直接依頼をすることが可能である。</li> </ul>

**(2)学校の教育活動に対して行われる、社会人講師の派遣や企業等が作成する一定の教育コンテンツの提供などによる支援の促進**

**①支援を提案する支援提供者を開拓すること**

様々なキャリア教育コンテンツを持つ関係機関からの講師の派遣や、現代日本の深刻な課題となっている環境問題について目を向けている「一般社団法人かんきょうデザインプロジェクト」との連携により、新たなキャリア教育の分野の開拓を行っていく。

**②支援に関する提案を学校に提示すること。**

現在キャリア教育が滞っている学校については、教育委員会の協力を仰ぎながら参加を呼びかける。それ以外にも、横浜市内の小学校においては、学校教育の一貫として放課後キッズクラブやはまっ子ふれあいスクールなどの放課後拠点が学校ごとに開所されているが、その時間帯でコンテンツを実施することにより、学校の授業時間を妨げずに実施することもできる。

また広報については、教育委員会の協力のもとになるべく学校全体に周知することにより、普段放課後活動に参加が少ない児童にも参加を促す。放課後の時間は子供たちがより自発的に関わる場という意味では、参加意欲を含めて有効な機会である。

その他、地域の校長会にもアプローチをし、近隣や関係性のある小・中・高等学校や各機関での案内の設置や全校配布など、小学校においては放課後活動拠点の通信に同封なども行う。

**③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。**

学校及び放課後拠点到コンテンツを提供していくが、企業側を含めそれぞれの事情は様々である。そこで、マッチングを行うコーディネーターを配置することにより、提案する側と受け入れる側の意見の交換や活動の流れを円滑にする。具体的な例としては、外国につながる子供たちが多く在住する地域では通訳を配置したり、不登校や障害を持っていたりする子供たちに対しては、医療センターや青少年相談センターなど各専門機関と相談しながら対応する。

**(3)学校の教育活動として校外で実施される職場見学、職場体験活動及びインターンシップ等に対する支援の促進**

**①インターンシップ等の実施場所として児童生徒の受入れを提案する支援提供者を開拓すること。**

地元で活動している「一般社団法人かんきょうデザインプロジェクト」の各種コンテンツや自然体験活動、地域の商店街での体験プログラムを始めとして、多くの受け入れ先を確保しており、対象についても小学生から大学生まで幅広く対応している。

**②インターンシップ等に関する支援提供者の提案を学校に提示すること。**

現在キャリア教育が滞っている学校については、教育委員会の協力を仰ぎながら参加を呼びかける。それ以外にも、横浜市内の小学校においては、学校教育の一貫として放課後キッズクラブやはまっ子ふれあいスクールなどの放課後拠点が学校ごとに開所されているが、その時間帯でコンテンツを実施することにより、学校の授業時間を妨げずに実施することもできる。

また広報については、教育委員会の協力のもとになるべく学校全体に周知することにより、普段放課後活動に参加が少ない児童にも参加を促す。放課後の時間は子供たちがより自発的に関わる場という意味では、参加意欲を含めて有効な機会である。

その他、地域の校長会にもアプローチをし、近隣や関係性のある小・中・高等学校や各機関での案内の設置や全校配布など、小学校においては放課後活動拠点の通信に同封なども行う。

**③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。**

学校及び放課後拠点到コンテンツを提供していくが、企業側を含めそれぞれの事情は様々である。そこで、マッチングを行うコーディネーターを配置することにより、提案する側と受け入れる側の意見の交換や活動の流れを円滑にする。具体的な例としては、外国につながる子供たちが多く在住する地域では、通訳を配置し、また、不登校や障害を持っていたりする子供たちに対しては、医療センターや青少年相談センターなど各専門機関と相談しながら対応する。

#### (4)その他の取組

現在横浜市や区と連携して、複合的な課題を抱える子供たちの再登校支援や学習支援を行っている。そこでの関係性から学校や行政機関との連携は頻繁に行っており、キャリア教育を受ける機会が少なくなる子供たちに対して、情報の提供を行ったり、フォロー体制を整えることが可能である。

#### 4. 実施内容

実施時期	実施内容
2014年7月8月	リサイクル施設・廃棄物処理工場撮影会 中高生対象
2014年8月	横浜橋通商店街へエヘエウォーキング 小中高大学生対象
2014年9月10日	第1回 横浜市地域キャリア教育支援協議会
2014年10月	横浜だがしや楽校withよこはま国際フェスタ2014 小学生対象
2014年11月13日	第2回 横浜市地域キャリア教育支援協議会
2014年11月12月	パティシエの仕事を体験しよう 中高生対象
2015年1月29日	第3回 横浜市地域キャリア教育支援協議会
2015年1月2月	横浜橋通商店街でお店の人のほたらしている姿を見よう！ 小中学生対象
2015年1月～3月	体で感じる医療の現場！！ 中高生対象

#### 5. 協議会の成果と課題

##### 【横浜市地域キャリア教育支援協議会の取り組みと成果】

本年度、横浜市地域キャリア教育支援協議会が行った取り組みと成果であるが、以下のようまとめられる。

##### 1. 横浜市における学校キャリア教育の現状と課題の調査及び整理

事務局が中心となり調査及び整理をしたが、以下のようにまとめられる。

- ・自分がどのように社会に貢献するかということを考える教育機会は十分ではない。
- ・事業を継続していくにあたり、学校・教員への負担が多い、中学校のカリキュラムの中で、このような取り組みに十分な時間を取ることが難しい。
- ・子供たちを受け入れてくれる存在を学校側が知らない。
- ・学校で行われているキャリア教育と、または地域で行われている職業体験が教育効果を配慮したものとなっていない、さらには学校との連携が取れておらず、相乗効果を生んでいない。

本協議会では、このような現状を受けての方策及び支援策を議論した。まずは、事業を実施する際に行う広報や各団体及び参加者への連絡等については、学校・教員への負担あるいは学校カリキュラムの阻害とならないよう、事務局が担当した。今回事業を受託した時期の影響もあり、まずは放課後の時間で実施をすることにしたが、学校側には広報の協力のみを依頼し、実際の参加者との連絡調整は事務局で行うこととしたため、学校側の負担を少なくすることができた。また、具体的なコンテンツの開拓先としても普段から社会教育に精通しているNPOや団体が協議会に参加することにより、普段学校あるいは教員が独自に有しているつながりのみにとどまらず広い視野からのコンテンツを実施することができた。この点について、次にまとめる。

##### 2. 革新的なキャリア教育コンテンツのモデル作り

実施するコンテンツについては、従来多く実施されているような分野でなく、地元の企業や生活している人たちの職業に即したキャリア教育の機会を提供することを重視した。例えば、資源リサイクルや地域商店街での仕事など、学校におけるキャリア教育の分野としては従来までは焦点のあたることが少なかった分野を開拓することにより、より多くの子供たちが社会には様々な仕事が存在し、そのバランスで成り立っているということを確認することができた。以上のことから既存のプログラムを選定して取り入れることや立ち上げを行ってきたが、具体的に以下4つのカテゴリーに分け、6つのプログラムを実施した。協議会において、それぞれについての内容や実施体制について精査した。また検証のためのアンケートを実施したが、その内容についても協議会内で検討した。

- ①環境:リサイクル現場撮影会 ※資料1
- ②商業:横浜橋通商店街へえへえウォーキング ※資料2、3  
横浜橋通商店街でお店の人のほたらいている姿を見よう! ※資料4  
横浜だがしや楽校withよこはま国際フェスタ2015 ※資料5
- ③ものづくり:パティシエの仕事体験しよう ※資料6
- ④福祉:体で感じる医療の現場!! ※資料7、10、11

※計画段階で示していた検証方法等を踏まえ、客観的・具体的に記載すること。  
※成果を踏まえた今後の課題についてもあわせて記載すること。

これらのコンテンツを実施した経緯であるが、横浜市においては、いじめ、不登校、生活保護家庭、外国籍、高齢化率の高い地域を抱えており、単に職業体験を重ねることが生きる力を育み、将来の進路を考えることにつながらない児童生徒が多数在住している。このような地域性のもと、最も重要となることは、自尊感情を育み、一人の市民としての意識を醸成させるために、積極的に社会に参加し、自己が認められる仕組みづくりである。そのために、自らが考え、自らが参加できる様々なイベント・プログラムの仕組みづくりが必要と考えた。実施することにより、様々な状況の子供たちが将来に向けた新たな展望を意識することができるようになり、人と関わる意欲も備わってくる。それにより、普段の生活や学習面での取り組み方についての見方が変化し努力する機会が増える。

以上を狙いとして、各専門機関との協力体制を活用し、普段学校に通う小中高生だけでなく、不登校児童生徒や、貧困や障害や外国籍など複合的課題を抱えた子供たちにも広報を行った。また各コンテンツの講師やスタッフについては、学生を含めた地域ボランティアで対応する。そうすることでまずは関わった人々が福祉や国が抱えている課題を考える機会を得ることも狙いとした。実際に各コンテンツの参加者の中で、そのような子供たちが参加したことは、地域性を捉え各関係機関の協力を仰ぐことにより、今までキャリア教育の行き届かなかった、本来キャリア教育を最も必要とする様々な課題を抱える子供たちへの本事業と協議会体制の有用性が成果として挙げられる。

#### 【課題】

今回協議会を実施する中で、見えてきた課題を以下にまとめる。

1. 各プログラムの実施について広報の課題があった。それについては「広報報告書 ※資料8」にまとめる。
2. プログラムを精査するアンケート内容について改善が必要。次年度はIKR調査などの項目も加えていく。

#### 【今後について】

本事業は三年を目処に実施段階を踏んで計画を立てている。初年度である今年、現在の横浜市立小・中・高等学校でのキャリア教育についての現状と課題を調査及び整理し、キャリア教育の実施が滞っている学校及び放課後現場や複合的課題を抱える児童生徒の関係機関中心に呼びかけを行い、発想の転換をしたキャリア教育モデルを作り出すことを行ってきた。

また、新たな取り組みとしての企画やコンテンツ内容を協議会で議論し、その内容を実際に現場で試してみることで、その効果について実施アンケートやインタビュー調査をもとに協議会で検討した。

また来年度の方向性と各コンテンツの状況についてや実施案や工夫について、協議会内で検討した資料を添付する(資料9)。具体的には、本年度実施した放課後の時間だけでなく、学校時間の中での実施を予定している。また、横浜市教育委員会と強力な連携を組み、教育委員会主導にてキャリア教育を推進していくことを互いに一致し、協力体制を整えることができた。来年度の実施計画書については、教育委員会が提出したものを参考資料として添付する。

最終的には、本地域において学校・放課後・子供たちと関わる関係機関が一体となったキャリア教育コンテンツを実施していく。